

予算等審査特別委員会の審査から

総括質疑

6年度予算案は、本会議で予算等審査特別委員会（吉本孝良委員長、九鬼ともみ副委員長）に付託され、全体会議と分科会において慎重に審査しました。

ここでは、3月6日から4日間の全体会議で行った総括質疑の主な質疑と答弁の要旨を掲載しています。

市民のお金

どのように使う？
どのようにいやす？



吉本 孝良 委員長



九鬼 ともみ 副委員長

義務的経費等の骨格予算のほか、市民生活に直結し、緊急性のある取り組みを予算化する。

問 積極的な投資事業は発展への重要な要素であり、そのためには安定的な自主財源の確保が必要である。自主財源である市税の現状は。

答 現時点では納税義務者数や個人所得が増加傾向にあるが、中長期的には、人口減少・少子高齢化により、個人市民税の減少が見込まれる。また、法人市民税は大規模な法人の市外移転や事業規模縮小が増えており、この状況が続くと、さらに市税収入は減少すると考えている。

問 市政運営における今後の経営改革において、財源確保に つなげるため、どのような取り組みを行っていくのか。

答 中長期的な視点で経営資源を確保する必要があると考えている。人口規模に応じた公共施設の再編や、民間活力の活用拡大などを進めていきたい。

問 6年度予算では、市債残高（借金）が13億円増える見通しであるが、本市の財政規律の考え方を聞きたい。

答 本市の財政規律は、これまでの実績や現状を踏まえ設定しており、まちづくりへの投資

6年度予算編成 本市の経営状況は



経営計画の内容はこちら↓
中長期的な経営マネジメントの視点を取り入れ、八王子未来デザイン2040の実現に向けた行動計画として策定した八王子市経営計画

と財政の健全性の両立を図る指標であると認識している。6年度予算では、一般財源等に占める公債費等の割合が財政規律として設定した12%台を下回ることから、健全な財政を堅持していると判断している。

問 医療費や教育費などにお金を掛けるためにも、新市長が就任したこの機会に、勇気を持って大きく事業の見直しを行うべきではないか。

答 企業立地を促進し、財源確保を進める一方、限りある財源の投資先としての事業の検証を、聖域なく行う必要があると考えている。経営計画では8年度に、まちづくりや財政等の変化を捉え、方向性を確認するとしており、抜本的な見直しも含め、適正に判断していく。

デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進計画に基づきデジタル技術の活用等を推進する。

デジタル技術の活用等の推進を



スマートフォンなどから手続きできるオンライン申請のさらなる全庁的な推進を

問 6年度もDX※推進計画に関する事業に取り組むとのことだが、全庁的に手続きのオンライン化を進められないか。

答 これまで年間1千件以上の申請がある手続きなどから順次、オンライン申請の拡大を図ってきた。今後は効果が高い子育て世代が対象の手続きを含め、関係所管とともに、拡大に積極的に取り組んでいく。

問 デジタル地域通貨の桑都ペイのポイント利用が2月末で終了したが、6年度も実施する方針とのことである。再開に関する周知がない中、多くの登録があったにもかかわらず、退会者等も発生していることは、残念である。また、入金トラブル等も起こったが、今後の考えは。

答 運用開始時に発生した入金トラブルや寄せられた意見は、今後検証を行い、6年度の再開までに必要な改善策を実施していく。

※デジタル・トランスフォーメーション。情報通信技術が浸透することで、人々の生活があらゆる面でより良い方向に変化すること